

まきびと カルデアの牧人 ～校長だより～ No.17

部活動を通して得たもの ～ 島根県高校総体を終えて ～

令和5年度の島根県高校総体が終わりました。3年ぶりに観客を入れて制限のない高校総体が開催されました。私も大東高校の選手が試合をする会場を周り応援しました。それぞれの会場が、たくさんの応援の中で選手が一生懸命にプレーし、大きな声援と熱気に包まれており、コロナ禍前の状態に戻って、どこも賑やかに大会が行われました。

すべての試合を見ることはできませんでしたが、前期の陸上競技とバスケットボールから後期最終日のソフトボールの決勝戦まで、大東高校の選手が活躍する姿をしっかりと観戦することができました。一人ひとりが、またチームが、最後まで諦めることなく、一生懸命にプレーをする姿を見て本当にうれしく思いました。

延長戦までもつれた熱戦を、僅か5人の選手で戦い勝利した男子バスケットボールの試合を応援し、大東高校の底力を見せつけられ、何か大きなことが起こる予感を感じました。後期もバドミントン部の学校対抗戦、剣道部の団体戦、ソフトテニス部の団体戦の応援から空手道部、バレーボール部と応援に回り、どの試合も手に汗握る接戦に大きな感動を覚えました。

試合には当然、結果として勝ち負けがついてきます。勝って喜んだ人もいれば、負けて悔しい思いをした人もいます。しかしいずれにしても、これまで練習を通して積み上げてきたもの、今回の総体で経験したことは、すべての人が、今後の人生のどこかで思い出した時に、それが自信になったり、自分を見つめ直す教訓になったり、必ず役立つことがあるはずで、総体での経験を一人ひとりの大きな財産として、しっかり心に留めておいてほしいと思います。

大会の結果、男子バレーボール部が24年ぶり、ソフトボール部が4年ぶりにインターハイへの出場を果たすことができました。決勝戦はそれぞれが本当に見事な試合で、勝利に向かう一人ひとり強い思いと、チーム力の高さで、たくさんの人に感動と勇気を与えてくれました。さらに力をつけて、インターハイでは島根県の代表として大東高校の名を全国に轟かせてくれることでしょう。

活躍を期待しています。



男子バレーボール、女子ソフトボールの賞状、優勝杯、優勝旗

